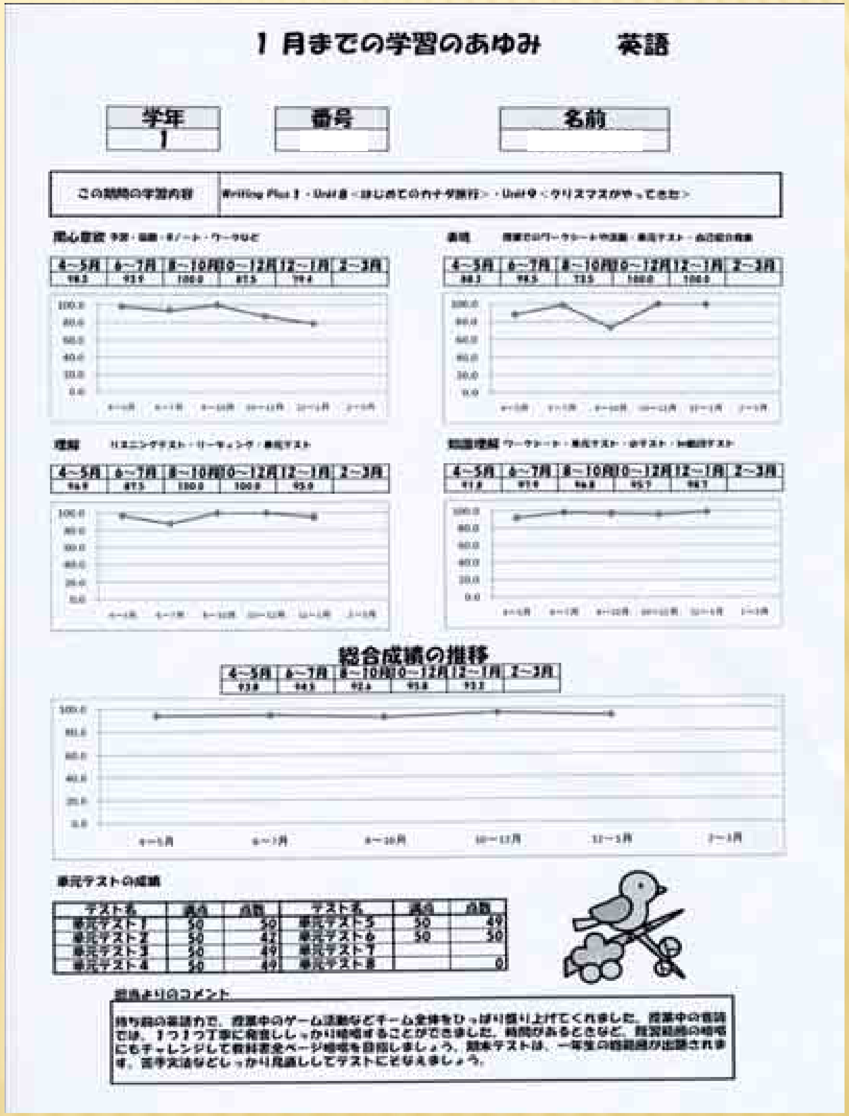
イ　評価システム

小学校用

学習のあゆみ（国語）　6年　番　氏名（

期間	4～6月	観点：①国語への関心・意欲・態度　②話す・聞く能力　③書く能力　④読む能力　⑤言語についての知識・理解・技能		
単元	**小・中単元**	**観点**	**学習内容**	**評価**
	続けてみよう	①	自分の学習体験を記録に残すことの計画を立て継続している。	A
本に親しみ、自分と対話しよう	カレーライス	①	父と子の気持ちのすれ違いを理解し、自分の経験と重ねながら読もうとしている。	B
		④	「カレーライス」を読み、「ぼく」や「お父さん」の心情を叙述に即して読み取り、「ぼく」の気持ちの揺れを理解して感想をもって話している。	B
	漢字の形と音・意味	①	漢字の組み立てや音・意味を通じて、「漢字」そのものに興味をもって課題に取り組もうとしている。	B
		⑤	漢字を組み立てている部分には、音を表すものや意味を表すものがあることを理解し、調べたことを発表している。	A
文章を読んで、自分の考えをもとう	生き物はつながりの中に	①	筆者の問いかけに関心をもち、文章を読んで考えようとしている。	B
		④	説明文から「生き物の特徴」を理解し、文章の要約をしている。	A
		④	筆者の考えに対して自分の意見を発表している。	B
	短歌・俳句の世界	①	短歌や俳句の言葉の使い方やリズムに関心を持って音読しようとしている。	A
		④	好きな短歌や俳句を選んで繰り返し音読し、優れた表現を味わって感じたことを発表している。	B
		⑤	短歌や俳句を音読しながら、文語の調子に親しんでいる。	B
	暮らしの中の言葉	①	ことわざや四字熟語のリズムや口調のよさを理解し、興味をもって調べたり使ったりしようとしている。	A
		⑤	ことわざや四字熟語を使ったときの効果が分かり、適切に使って短い文を作っている。	B
相手や目的に合わせて書こう	ガイドブックをつくろう	①	取材したり、組み立てを話し合ったりして、使う人に役立ち喜んでもらえるガイドブックを作ろうとしている。	A
		③	相手と目的を理解し、読み手にとって必要な情報を考えて項目を整えている。	A
		③	全体の構成や材料の選び方を考え、実際に出かけたり分からないことを調べたりして整理している。	A
		③	目的に合った文章か、読み手に分かりやすいかなどの観点を決め、文章を見直して修正している。	A
言語	漢字	⑤	学習した漢字を正しく読んだり、書いたりすることができる。	A
	書写	⑤	硬筆や毛筆で文字の組み立て方、大きさ、配列に注意して文字を正しく書くことができる。	B

中学校用



※「学習のあゆみ」は小学校年間４回、中学校年間５回発行

※　通知表は小中学校とも年間２回発行

(3) 小中連携システム

ア　教科担任制による指導

６年生の音楽･図工･体育･英語の教科を中学校の教科担当者が指導する。また、６年生理科は小学校理科専科と中学校理科教員がTT指導をする。

必要に応じて、他学年の指導に入る。

イ　複数体制による指導

チャレンジ学習や英会話科、うぶやま学に複数の教員が指導にあたる。

小中学校教員で両校の生徒指導等にあたる。

ウ　養護教諭、栄養教諭、事務職員の連携

保健指導、栄養指導、事務の共同実施

エ　物的環境の共有、合同行事等の実施

兼務辞令

共通理解
共通指導

教科担任制

図工

体育

音楽

英語

複数指導体制

〈英会話科〉

小学校担任、中学校
英語担当、ALT

〈理　科〉

小学校理科専科、
中学校理科教員

物的環境の共有・合同行事

メディアセンター
（多目的室）

他にプール、体育館、家庭科室、図工室、音楽室、ランチルーム

合同体育祭

▲産山小中学校合同研究発表会　※平成２３年１１月１１日

▼合同職員会議

（4） 地域との連携

○　平成２２年３月、学校運営協議会が設立される。
○　学校支援地域本部事業とタイアップして、「われら学校の応援隊」というコンセプトのもと産山小中学校コミュニティ・スクールが立ち上げられた。

われら学校応援隊

それぞれの地域の応援隊が「学校運営協議会」を支える。

◆交流コミュニティ（広げ隊）
　交流活動を通して、他地域や他国の文化や伝統を理解し心の交流を深め、国際社会の一員としての自覚と故郷「産山」や日本の文化伝統を深く学ぶ場とするための支援を行う。

◆体験コミュニティ（暮らし隊）
　体験を通して、福祉や将来の進路に関心をもち、自分たちの暮らしや生き方を考えるための支援を行う。

◆文化・安全コミュニティ（伝え隊）
　産山村の伝統文化を守り伝えていく心を養い、産山村の地域安全を守る活動を通して、産山を愛する心を育てるための支援を行う。

◆学習支援コミュニティ（学び隊）
　環境学習や食育や地域学習の支援を行ったり、読書に親しむ態度を育てたりする支援を行う。

産山小・中学校コミュニティスクール　組織図

産山小中　共通校訓　「We have a dream」私たちには夢がある

産山中学校　教育目標　「One for all, All for one.」

産山小学校　教育目標　「夢拓く『うちこむ ぶつかる やりぬく まっすぐ』」

学校運営協議会

●協議会会長　1名(協議会委員からの互選)
○協議会委員
各コミュニティ代表4名　関係行政機関代表2名　保護者代表各1名
学識経験者　教育委員会が必要と認める者　若干名

産山小学校学校運営協議会事務局　産山中学校学校運営協議会事務局

（広げ隊）

交流コミュニティ

- ヒゴタイ交流推進
  - ○国際理解教育の支援
  - ○地域宿泊体験のコーディネート
- 御所浦交流推進
  - ○御所浦交流の支援
  - ○地域宿泊体験のコーディネート

（暮らし隊）

体験コミュニティ

- 福祉体験
  - ○子どもヘルパー活動（ジュニアヘルパー活動）
  - ○福祉体験活動
- くらし体験
  - ○農業体験学習（田植え・稲刈り・茶摘み）
  - ○職場体験学習
  - ○学びの森構想支援

（伝え隊）

文化安全コミュニティ

- 伝統文化
  - ○清安の舞
  - ○ヒゴタイ太鼓
- 安全
  - ○登校指導
  - ○少年清防活動

（学び隊）

学習支援コミュニティ

- 学習
  - ○食育（郷土料理の学習）
  - ○子ども議会
  - ○環境学習
  - ○地域学習
- 読書推進
  - ○読み聞かせ活動

産山小中学PTA連絡協議会

産山小中学PTA連絡協議会

学校支援地域本部コーディネーター

産山村学校支援地域本部事業

基本コンセプト　（われら　学校の応援隊）

広げ隊

ヒゴタイ交流

海山交流　※天草御所浦小との交流

暮らし隊

田植え

中学校職場体験

子ども・ジュニアヘルパー活動

伝え隊

安全見守り

ヒゴタイ太鼓（中学生）

少年消防隊（中学生）

学び隊

郷土料理作り

ヒゴタイ音頭師範

［創作書道教室］

読み聞かせボランティア

放課後子ども教室

［そろばん教室］

５　成果と課題

(1) 成　果

○　学級担任制と教科担任制（専門性）のメリットを学習指導に生かすことにより、６年生が中学校入学と同時に各教科を意欲的に学ぶようになった。

○　中期において、学習面、生徒指導面等のなめらかな接続ができ、中１ギャップの解消につながっている。

○　小中学校の人的・指導等の連携・統一により、教職員の意識が変容して、９年間を見通した指導の連続性が図られるようになってきた。

○　小中一貫した産山型学習で児童・生徒が授業の流れをしっかり把握することができ、じっくり思考する学習活動が展開され、思考力、表現力が向上してきた。

　　また、教師の評価が明確になり、指導と評価の一体化が図られてきた。

○　コミュニティ・スクール等により地域と学校がこれまで以上に相互理解・協力が図られ、地域の教育力を学校経営に生かすことができた。

(2) 課題と展望

○　児童･生徒の学力や生活面の確かな実態把握に基づき９年間を見通した教科内容･指導の系統性をこれまで以上に明確にしていく必要がある。

○　小中連携システムでは、その運用と共通指導をより確かなものにするために、合同の職員会議や研究会の機会を増やし、教職員の意識統一を図っていく。

○　これまで以上にコミュニティ･スクール、学校支援地域本部事業等を強化して、保育園･小学校･中学校そして地域が一体となった教育プランを構築していく。

６　おわりに

小中一貫教育を推進していく時、教職員間の交流による意識の連携と指導の一貫性が重要である。産山村教育改革の原点に立ち返り、義務教育９年間を見通した教育ビジョンの共有化と教師間の連帯感や地域との一体感がともなった「産山の教育」を構築していきたい。